

② 出会いの確率での、解₁、解₂、解₃の考察。

特別な場面での3者の比較。

	解 ₁	解 ₂	解 ₃
	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$
	$\frac{1}{2}$	$\frac{4}{9}$	$\frac{3}{8}$
	$\frac{1}{2}$	$\frac{3}{8}$	$\frac{7}{32}$
	$\frac{1}{2}$	$\frac{8}{25}$	$\frac{15}{128}$
	$\frac{1}{2}$	$\frac{5}{18}$	$\frac{31}{512}$

実際の場面で考えると、「横長はじ」が長くなるに従って、出会いの確率は次第に小さくなり、0に収束するというのが自然である。

従って、解の前提、「全ての道筋が平等に選ばれる。」は、合理的ではない。数学の問題としては、特に気にする必要はないかもしれませんが...

(出会いの確率)

※ 平面的に広がる区画であれば、解₁~3 それぞれ、区画の縦・横が増加するに従って、次第に確率が減少していくので、あまり不自然さは感じません。

一般的に

解₃ < 解₂ < 解₁ となり

いさよひである。

